

黄斑変性患者にさらなる朗報

ルテイン情報局は国立眼科研究所(NEI)の最新研究結果をお届けします。

2001年10月のNational Eye Institute 研究結果において、β-カロテン、ビタミンC、ビタミンEおよび亜鉛の組み合わせに加齢黄斑変性(AMD)の進行を大きく遅らせる重要な働きがあると報告されました。一方で、ルテイン情報局諮問委員会委員長であるロバート・アベル医学博士は、抗酸化物質ルテインがAMDのリスクを減らす働きがあることを示す数々の情報を消費者にアピールしました。

「ルテインは眼球において抗酸化物質として働き、健康な視力におけるその影響については科学的に十分確証されています。必要なビタミンとルテインを組み合わせることで、老齢のアメリカ人など黄斑変性のリスクにさらされている人々の助けになることが研究で実証されています。健康な眼球およびドナーの眼球網膜において、ルテインはβ-カロテン以上の重要な役割を果たしているとの確実な証拠もあるのです」

ルテインとゼアキサンチンは健康な眼球網膜に存在するカロテノイドです。多くの果物や野菜に豊富に含まれ、光が引き起こすダメージから細胞を守ります。最も多くルテインが含有されているのはホウレンソウとケールですが、トウモロコシや卵の黄味などにも存在しています。ルテイン情報局(www.luteininfo.com)は、フリー体ルテイン FloraGLORを食品・飲料、栄養補助食品、およびパーソナルケアマーケットに販売する世界的なメーカー、ケミンフーズの支援で運営されています。

2001年10月12日